

万博 1年 ③

中小企業アンケートから

ICタグや読み取り装置を開発するマトリックス

は、災害時にがれきに埋もれた人をピンポイントで探知できる「POWER TAG SEARCHER（パワータグサーチャー）」を万博で披露した。当初は企業向けを想定していたが、来場者から「祖父母に持ってもらいたい」といった声が寄せられ、今年9月に小型版を発売した。

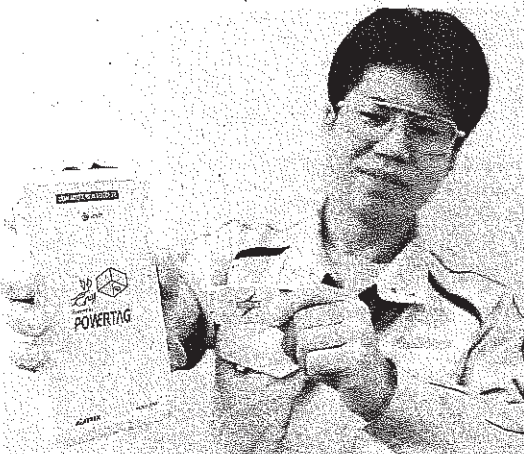
1980年に創業し、ソフトウェアを手がけてきた

が、99年、特定の信号を受けた時だけ起動させることで、消費電力を抑えるICタグを開発。入退室管理や

災害時 ICタグ探知

9月に発売した「パワータグサーチャー」の小型版とICタグ。浜口さんは「万が一の災害時に役立つよう、今後さらさらブラッシュアップを重ねていきたい」と話す（大阪市中央区で）

マトリックス
(大阪市中央区)



すだけで、がれきに埋もれた人のICタグを探知するシステムを完成させた。範囲は半径8〜9メートル。災害に備え、社員にICタグを持たせたい企業の導入を想定していたが、来場者の声を受けて、半径2〜3メートルで探知できる手のひらサイズの小型版も開発した。価格は企業向けの10分の1の4万円程度に抑えた。

開発を担当した技術部主任の浜口夏輝さん(26)は「なじみのない技術だが、万博で興味を持ってもらえた。さらに少しでも多くの人に知ってもらいたい」と話す。

子どもの登下校の見守りに活用するほか、自転車レースのタイムを計測するサーチャーも提供する。技術を応用し、探知機をかざ

(相間美菜子)